

# 長谷川朝子のアイデアノート



## とっておきの着物ドレス

新年おめでとうございます。陰暦正月の異称、むつびづきは、正月に親しい人、親族が集まって仲むつまじくお酒を飲んだり楽しく過ごすというところから『睦び月』と付けられました。1年の初めが仲良く過ごすことだなんて、昔の人の深い思いを感じますね。

今月は着物で作ったドレスをご紹介します。

コンサートには、いつも着物地で仕立てたドレスを着用します。このドレスはもととはお振袖でした。反物を斜めに扱うことから、シルエツトがきれいに出来るうえに、着



◀前身ごろ、スカートは斜めに。ファスナー付けが伸びるので、後身ごろは縦に布を裁断



▲このデザインは気に入っているので何着も布を変え作りました。大胆な柄ほど良く合います



◀夏用の地模様反物で作ったコートドレス。布目を横に使いました。布目の扱い方次第で、まったく別物に仕上がります。ちりめんのコサージュと帯締め、ビーズで作ったネックレス



▶頂き物の付け下げで。柄とデザインがよくマッチして清楚（せいそ）な仕上がりになりました

物の概念に縛られることなく、デザインが自由に大胆にできます。反物を斜めに扱うこと、これがとっておきの私のアイデアです。(写真A)

はじめは、自分で製作していましたが、今は時間がないので、柄あわせとデザインだけ自分で考え、縫っていただいています。

洋裁用ボディに着物地をピンでとめ、「朝顔・紅葉・銀杏」の絵柄をどこにあてるか、数か月間柄合わせを考えます。

これらの衣装を見ていただきながら、歌とハーブの出前コンサートとおしゃれトークをしています。皆さんの大小様々な会合や集会にも、お気軽にお問合わせください。

も立派なドレスができます。

手描きや織物、日本の着物地は日本人が生み出した最高の布だと思っています。

長谷川朝子さん

福島市在住。声楽家・ハーブ奏者。長谷川音楽事務所、長谷川音楽スクール代表。大学講師やラジオのパーソナリティ、福島民友新聞連載「うたのふるさとを訪ねて」を執筆。また、全国の学校を回る演奏活動、番組審議委員、コンクール審査員を務めるなど多方面で活躍中。2013年に第23回みんゆう県民大賞芸術文化賞を受賞。

HPアドレス <https://hasegawamusic.com/>

